



深田久弥

山の文化館だより

令和3年
秋号

深田久弥 山の文化館
〒九二一〇〇六七
石川県加賀市大聖寺春場町十八
TEL 〇七六(一)七二一三三三一
FAX 〇七六(一)七二一三三一

加賀市ふるさとの自然 ふれあいコンクール 入賞作品決まる

第十六回目のコンクール作品募集を行ったところ非常に多くの作品が寄せられました。画家の長谷川 清氏と写真協会の宮下一夫氏のお二人に審査をして頂き、入賞者が決まりました。加賀市長賞、加賀市教育委員会賞、深田久弥山の文化館賞各一点と、佳作十点、入選十一点が選ばれました。これらの入賞作品は九月二十五日から十月十一日まで深田久弥山の文化館で展示されます。



加賀市長賞
熊本 靖菜さん
(山代小一年)



加賀市教育委員会賞
深村 亮太さん
(橋立中二年)



深田久弥山の文化館賞
村井 彩由奈さん
(錦城小六年)

久弥と五万分の一地形図と赤鉛筆と

その15

『山の本』一一六号に高辻謙輔氏の「荒沢岳雑感」と題する一文があった。読み進めると、深田久弥の「大津岐峠を越えて銀山平へ」が紹介され、高辻氏が青年期に読んだ時の心の昂ぶりを書いておられる。この旅は、前号(令和三年夏号)に採り上げた尾瀬行きに続くものである。「会津駒ヶ岳」と共に『山岳展望』に収録されている。

昭和十年六月十四日朝、田辺和雄と別れ長蔵小屋を発ち松枝岐に下った久弥は、松枝岐の宿で一息入れると、会津駒ヶ岳に登っている。翌十五日朝には大津岐峠を越えて銀山平へ、そして大湯温泉に向かった。この旅の地形図を探してみた。「檜枝岐」と「八海山」があった。それぞれ地勢図「日光」の十番と十四番である。

例によって、赤鉛



筆のラインと谷の名前などが書き込んであり、「荒澤嶽」の名は赤鉛筆で四角く囲んである。荒沢岳に登ったのは昭和四十四年七月二十日であるから、この時点からは遙か後の話である。

会津駒ヶ岳の赤鉛筆のラインは登山口から下ノ沢を右手に見ながら尾根を急登し山頂に向かっている。もう一つのラインは一七八〇メートルのコブから上の沢の方に向かい、そして上の沢に沿って登山口まで引かれている。一七八〇のコブからのラインは、「会津駒ヶ岳」の文中にあるように、道に迷い藪漕ぎを強いられて疲れ果てた結果、登山の鉄則を破って谷に下ってしまった結果であった。

翌六月十五日から十六日にかけての赤鉛筆のラインは、松枝岐↪麒麟手↪大津岐峠↪大津岐川合流点↪浪拜↪須原口↪中ノ岐川合流点↪中荒澤合流点↪石抱橋↪枝折峠へ、そしてそのすこし先までである。このラインのうち大津岐川合流点から中荒澤合流点までが奥只見湖の湖底に沈んでいる。途中の須原口で一泊し、翌日、大湯温泉まで行き一泊している。

深田久弥ゆかりの地

「福井中学」と丸岡の碑

久弥は石川県大聖寺で生まれたが中学は母の実家があった関係で福井中学へ入った「名もなき山へ」の中の「私の母校 福井中学」の中に当時の中学生の久弥の姿が、生き生きと記されている。

私たちはその文章に従って「旧制福井中学跡地」を訪ねた。それは旧藩時代の福井城の中にあり、今は城跡の石垣とお濠が残るばかりだが、何よりも文章の中の「突角」とカイツブリと白山に惹かれ、「突角」を探した。

そこは記されているとおり石垣の先端であり、高台となって、向いにはなるほど白山が真正面に見える・・筈だったが時節は夏の終わりで雲が厚く垂れこめていて思いをめぐらすにとどめた。文中にある蓮の花、カイツブリはなかったがシラサギがお濠の一角に四、五羽羽を休めていた。森山 啓は同級生でその父親が自分たちの先生であったとも記されていて、なかなか面白い文面である。少し離れたところには跡地を示す史跡も残されていた。

丸岡まで足を伸ばすと丸岡城のすぐ側の公民館跡地に句碑として

城 尊し 古き城更に 尊し 久弥

の碑がある。これは「丸岡成人大学」の講師を長年勤めた関係で平成7年に建立されたも

のである。丸岡城も有名だがちょうど曼珠沙華が咲く頃の城の周辺も趣深いものがあると思っ

突角から望む
白山



明新館跡地

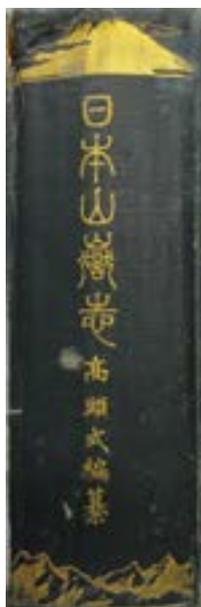


丸岡の碑



この一冊

先日、『日本山嶽志』の初版本を寄贈して頂きました。高頭 式編纂で、明治三十九年二月四日発行の古典的一冊です。複製版などは見てきましたが、本物は初めてです。貴重な一冊です。



● 間こう会予定

新型コロナウイルスの流行の中で、間こう会
はリモートで二会場形式にして実施
しています。
(聴講無料)

午後一時半より三時
深田久弥山の文化館聴山房他

● 十月二十四日(日)

演題…深田先生の文学について
講師…門 玲子氏

● 十一月十四日(日)

演題…ふるさとの自然
講師…真栄 隆昭氏

● 十二月十二日(日)

演題…久弥さんの富士山直滑降
講師…川本良一氏

● 読書会のお誘い

『日本百名山』など深田久弥の作品
を読んで、山やその自然、文化につ
いて語りあっています。お気軽にご
参加下さい。(参加無料)

十月 十五日(金)

『日本百名山』より「聖岳」

十一月 十九日(金)

『日本百名山』より「霧ヶ峰」

● 場所…深田久弥山の文化館
● 時間…午後一時半より三時

* 詳細はホームページをご覧ください

● 編集後記

秋号をお届けする季節になりました。山の文化館のギンナンが落ちはじめ、もう一月もすると黄色一色になります。イチヨウの黄葉を見に、ぜひお越しください。(Y・O)